

令和6年度事業報告書

社会福祉法人よるべ会

【社会福祉法人よるべ会】令和6年度 職務執行状況報告書

□年末の12月中旬「よるべ沼代」でコロナ感染拡大が始まり、1月中旬まで利用者40名中30数名の感染でロックダウンとなり、各種行事は中止され利用者の皆さんには我慢の生活の年越しとなった。蓄積されたBCP対応と法人内職員の応援体制が速やかに組み、年末年始の間も対応が図られ、終息することが出来た。年間を通しては各事業所で何度か感染が見られたが拡大に至らず収まった。職員一丸となつての対応力の高さが見られた。

□年間計画に添って、活動自粛を一先ず終え、慎重にその再開を踏み出した。8月の“よるべ夏祭り”、10月“法人設立40周年感謝のつどい”を実施し、各々約400人余の集まりとなり、又、施設・事業所の行事等も順調に進み、保護者や地域の皆様初め多くの方々と久しぶりの直接のふれあいで改めて利用者の皆さん共々大きな喜びを感じることが出来た。

□一方、運営面において継続しての職員確保難やめまぐるしい価格高騰の対応に追われたが、日常のサービス提供の場面では年間計画に添い順調に適切な支援活動につながることが出来た。しかし「わらべの杜」で利用児童約10名の欠員が続き、経営基盤を揺るがすマイナスが生じた。児童入所調整は児童相談所を介することであり、1月から県担当課及び中央児童相談所と児施設ニーズ状況や打開策の協議・検討を重ね、その解決に向けての確認を行った。

□更に法改正に合わせての労務管理整備や給与改善策検討、そして報酬改定に伴い義務化された新たな業務の実施体制づくりや次年度につなぐ準備を行った。

〔1〕主な活動報告

責任者会（月2回）運営会議（月1回）サービス向上委員会（月1回）
権利擁護部会・人材育成部会・サービス向上部会・ICT部会
労務管理委員会（月1回）

① 権利擁護について

- 各施設・事業所での委員会・研修・訓練・実施確認
- 全体職員研修会。 9月21日（土）
 - ・改定「よるべ会職員倫理綱領・行動規範」の周知
 - ・虐待防止、身体拘束適正化研修
- ハラスメント・職員窓口の役割・アンケート調査実施と対応

② 業務の検証と改善について

- 各施設・事業所実施状況、報告、確認
- 「福祉サービス第3者サービス評価」受審
(コスタ・二宮10月1・2日、地域生活支援室10月31日、11月1日)
- ラインワークスの整理と新編成実施

③ 人材確保・育成について

- 新任職員研修 6月18日対象者8名
- 非常勤職員 人事考課評価表作成
- 法人“説明・見学会”実施(参加者:6月25・26日(1名)、7月5日(1名)、2月26・27日(2名)、2月28日(1名))
- 新卒就職サイト企業との契約内容、検討・確認
- 資格取得・更新の推進と調整

④ 地域社会との連携について

- よるべ夏祭りの実施 8月4日(約400人余の参加) わらべの杜にて
- コスタ・二宮の各種バザー出店参加
- よるべ沼代の橘北地区健民祭参加
- ぽけっとの企業交流会実施 等々

⑤ 職員労務管理の改善について

- 「ハラスメント防止規程」改定
- 就業規則一部変更
- 資格取得奨励金規程一部変更
- 障害者雇用の推進
- 非常勤職員社会保険適用拡大対応
- 他法人(至泉会・県西福社会)との労務管理に関する意見交換会実施
2月28日
- みたけ社労士事務所による就業規則学習会実施(10月4日)
- 令和7年度ベースアップ検討(令和6年度決算・令和7年度予算での判断とし
令和7年6月までに結論とする)

□法人設立40周年記念事業について

- (4月) 実行委員会による計画内容・役割分担決定
- (5～6月) 役割分担、内容検討、確認、準備
- (7月～) 案内状、記念誌作成、式典計画・会場設営検討、感謝状贈呈者
招待者選定、記念品等準備
- 10月19日小田原市生涯学習センター「けやきホール」にて開催
 - ・「よるべ会の今」動画紹介・感謝の言葉・小田原市長祝辞
 - ・来賓紹介の後、和太鼓、コーラス、よさこい踊りの日頃から行事や日課プログラムで利用者に馴染み深いグループの皆様のパフォーマンスが3部構成で演じら

れ、62名の感謝状贈呈も3回に分け（当日30名参加）て行い、約50名の招待者、そして利用者・保護者・職員の総計約400名余の参加となり、楽しい一時となった。

□よるべ沼代給水設備（井戸）整備工事について

7月17日 工事事業者選定入札実施

9月 着工

1月 工事終了

1月31日 水質検査・問題なし

2月 水槽設置工事

3月10日 県による現地調査で完了

良質で豊富な水量が確認された。

□グループホーム（ポプラの家）簡易型スプリンクラー設置について

国・県助成金申請提出を行った

〔2〕事業運営（令和7年3月31日現在）

事業所名	よるべ沼代 (障害者支援施設)		コスタ・二宮 (障害福祉サービス事業所)		梅香園 (障害福祉サービス事業所)		わらべの杜 (福祉型障害児入所施設)	
実施事業	施設入所支援	定員40名	就労継続支援B型	定員20名	就労継続支援B型	定員18名	施設入所支援	定員40名
	生活介護	定員40名	生活介護	定員20名	生活介護	定員22名	短期入所	定員4名
	短期入所	定員4名					相談支援事業	
	相談支援事業							
事業所名	障害者支援センターぽけっと (就業・生活支援センター)		かめりあ・ポラリスホーム 共同生活支援事業（計8棟）		あずさの家 共同生活支援事業（計3棟）		どーむ (児童発達支援事業所)	
実施事業	就業・生活支援センター	登録者約540名	かめりあホーム	定員 33名	あずさの家	定員 7名	児童発達支援事業	定員10名
	地域就労援助センター		ポラリスホーム	定員 13名	ポプラの家	定員 7名		
					わたくも	定員 7名		

〔3〕理事会・評議員会開催状況

*監事監査

令和6年6月3日（安西監事・清水監事）

＊理事会

開催日	議案	出席者
6月13日	第1号議案 令和5年度事業報告(案)	理事7名
	第2号議案 令和5年度計算書類及び財産目録(案)	監事2名
	第3号議案 欠員評議員の候補者について	
	第4号議案 評議員選任・解任委員会の開催	
	第5号議案 役員退任に伴う候補者について	
	第6号議案 井戸新設工事に伴う第1次補正予算(案)について	
	第7号議案 よるべ沼代「井戸新設工事」について	
	第8号議案 よるべ会諸規程改定(案)について	
	第9号議案 令和6年度第1回評議員会の開催について	

開催日	議案	出席者
10月17日	第1号議案 令和6年度資金収支第2次補正予算(案)	理事7名
	第2号議案 運営規程の改定(案)	監事2名
	第3号議案 令和6年度第2回評議員会開催について	
3月13日	第1号議案 令和6年度資金収支第3次補正予算(案)	理事7名
	第2号議案 令和7年度事業計画(案)	監事2名
	第3号議案 令和7年度当初予算(案)	
	第4号議案 諸規程の改定(案)	
	第5号議案 令和6年度第3回評議員会開催について	

＊評議員会

開催日	議案	出席者
6月28日	第1号議案 令和5年度計算書類及び財産目録(案)	評議員7名
	第2号議案 新役員(理事・監事)の選任について	監事2名
	第3号議案 令和6年度第1次補正予算(案)について	
10月28日	第1号議案 令和6年度資金収支第2次補正予算(案)	評議員7名
		監事2名
3月21日	第1号議案 令和6年度資金収支第3次補正予算(案)	評議員6名
	第2号議案 令和7年度事業計画(案)	監事2名
	第3号議案 令和7年度当初予算(案)	

＊評議員選任・解任委員会 令和6年6月18日(秋山委員・清水監事・中島委員)
安藤評議員が4月に亡くなられ欠員が生じ、山下理事が新評議員に選任。

〔４〕 契約・入札処理及び固定資産について

＊よるべ沼代「井戸新設工事」 入札日 令和6年7月17日
 入札立会 清水監事、伊藤評議員、秋澤理事、東海理事
 ㈱井戸屋 22,070,000円（税別）

〔５〕 法人全体職員状況

【法人職員状況】											(令和7年3月31日)					
職 種	よるべ沼代		コスタ・二宮		梅香園		わらべの杜		ぼけっと		地域生活支援室				どーむ	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	二宮地区		小田原地区		常 勤	非常勤
管 理 者	1		1		1		1		1		1 (兼)		1		1 (兼)	
サ ビ 児 管	1 (兼)		1 (兼)		1		1 (兼)				2		1 (兼)		1	
医 師																
看 護 師	1		1 (兼)		1 (兼)											
養 護 士																
生 活 支 援 員	12	7	2	4	5	1					4		4			
支 援 員		1	5	4	3	9			4	4						2
保 育 士							5	6							1	1
児 童 指 導 員							6	12								
相 談 支 援 専 門 員	4															
世 話 人												26		19		
運 転 手 介 助 員			1		4		1	1								
事 務 員	4		1		1											
そ の 他																
小 計	22	8	8	10	11	14	13	19	5	4	6	26	5	19	2	3
	30		18		25		32		9		32		24		5	
合 計	72	103	175													

〔６〕 主な会議等

会議名	開催数	開催日														
全体職員会議・研修	5回	7/6 9/21 11/9 2/15 3/15														
執行責任者会	28回	4/9.30 5/14.28 6/11.25 7/9.30 8/9.27 9/10.24														
		10/11.29 11/12.20.26 12/10.24 1/14.15.28 2/4.10.25 3/11.17.25														
運営会議	12回	4/9 5/14 6/11 7/9 8/9 9/10 10/8 11/12 12/10 1/14 2/4 3/11														
サービス向上会議	12回	4/30 5/28 6/25 7/30 8/27 9/24 10/29 11/26 12/24 1/28 2/25 3/25														
労務管理委員会	11回	4/23 5/22 6/21 7/24 10/4 11/15 12/4 1/30 2/10.28 3/18														

〔７〕 労働安全衛生

＊職員健康診断を実施（7月4・11日）

〔８〕 広報活動

＊かわら版 2回／年 夏号8月発行 冬号1月発行
 ＊かわら版特別号 40周年記念特別号10月発行
 ＊ぼけっと通信 3回／年
 ＊ホームページ 順次更新

〔 9 〕 法人行事・研修等

	行事・家族会他	理事会・研修会他
4	01(月) 辞令交付	09(火) 責任者会・運営会議
	07(日) 沼代地区祭り	30(火) 責任者会・サービス向上会議
	20(土) よるべ会保護者会総会	
	16(火) みのり会総会	
	24(水) 健康診断（梅香園）	
5	05(日) ゴールデンウィークレク（よるべ沼代）	14(火) 責任者会・運営会議
	25(土) コスタ二宮日帰り旅行	28(火) 責任者会・サービス向上会議
	29(水) ハイキング（梅香園）	
6		03(月) よるべ会監事監査
		11(火) 責任者会・運営会議
		13(木) よるべ会理事会
		25(火) 責任者会・サービス向上会議
		28(金) よるべ会評議員会
7	04(木) 健康診断（コスタ・わらべ）	06(土) 全体職員会議
	11(木) 健康診断（よるべ沼代）	09(火) 責任者会・運営会議
	27(土) 梅香園納涼大会	30(火) 責任者会・サービス向上会議
8	04(日) よるべ夏祭り	09(金) 責任者会・運営会議
	13(火)～15(木) 夏休み	27(火) 責任者会・サービス向上会議
	13(火) 夏休みレク（よるべ沼代）	
	19(月)～20(火) わらべの杜一泊旅行	
9	（日）健民祭（よるべ沼代・わらべの杜）	09(火) 責任者会・運営会議
	16(月) 敬老会（よるべ沼代）	21(土) 法人全体職員研修会
	21(土) よるべ会保護者会	24(火) 責任者会・サービス向上会議
	28(土) 歯科検診（よるべ沼代）	
10	05(土) 保護者面談日（よるべ沼代）	08(火) 責任者会・運営会議
	19(土) 法人40周年記念式典（けやきホール）	17(木) よるべ会理事会
	（ ）予防接種（梅香園）	25(金) よるべ会評議員
		29(火) 責任者会・サービス向上会議
11	08(金) 予防接種（コスタ二宮）	09(土) 全体職員会議
	09(土) 予防接種（わらべの杜）	12(火) 責任者会・運営会議
	14(木) 予防接種（よるべ沼代）	26(火) 責任者会・サービス向上会議
	16(土) コスタ二宮秋祭り	
	16(土) 予防接種（わらべの杜）	
12	07(土) 県西部地区障害者文化事業	10(火) 責任者会・運営会議
	14(土) よるべ会保護者会・よるべ沼代清掃	24(火) 責任者会・サービス向上会議
	14(土) わらべの杜クリスマス会	
	20(金) よるべ沼代クリスマス会	
	21(土) コスタ二宮クリスマス会	
	21(土) 梅香園クリスマス会	
	28(土) よるべ沼代餅つき	
	29(日)～1/3(金) 冬休み	
1	04(土) 仕事始め	14(火) 責任者会・運営会議
	08(水) 大山阿夫利神社参拝	28(火) 責任者会・サービス向上会議
	08(水) どんど焼き（わらべの杜）	
	11(土) よるべ会新年会	
	16(木) どんど焼き（よるべ沼代）	
2	15(土) 内科検診（よるべ沼代）	04(火) 責任者会・運営会議
	15(土) よるべ会保護者会役員会	15(土) 全体職員会議
	22(土) わらべの杜卒業旅行	25(火) 責任者会・サービス向上会議
	23(日) 消防団合同訓練（わらべの杜）	
	24(月) 消防団合同訓練（よるべ沼代）	
3		11(火) 責任者会・運営会議
		13(木) よるべ会理事会
		15(土) 全体職員会議
		21(金) よるべ会評議員会
		25(火) 責任者会・サービス向上会議

【よるべ沼代】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

法人の基本方針に基づき、質の高いサービス提供に向けて、「施設入所支援」「生活介護」「短期入所」「日中一時」事業をさらに充実させ、入所利用者の高齢化・重度化への対応等の必要な支援を進める。他の事業所との連携を深め、施設生活の質の向上に向けた環境づくりを積極的・計画的に実施する。

- ・ 生活介護事業の活動の充実を図るため、作業種や活動内容の検討や改善を進める。
 - ・ 世代や個人の趣向を考慮した余暇活動の検討、充実を図る。
 - ・ 感染症や非常災害発生時の業務継続計画（BCP）の検証、改善を実施する。
- また、必要なサービスを継続的に提供できる体制づくりを進める。

〔2〕 取り組みと状況報告

職員体制の変更が大きくあったが、年間計画に沿った活動を行うことができた。外出レクも年末年始にかけて発生した新型コロナウイルスのクラスターのため中断はしたものの、どうにか実施することができた。新型コロナウイルスのクラスターでは、職員4名を含む計35名の感染が確認された。このためクリスマス会は中止となり、残念な年越しとなったが、どうにか乗り越えることができた。

年間を通し、業務の見直しをすすめてきており、さらに業務整理とシステム化ができるよう検討を重ね、一部では実施することもできた。

又、令和6年度は転倒等が多く、高齢化による機能低下は避けられず、PTによるご指導を中心に日中活動でも機能訓練を取り入れ、維持・向上に取り組んできた。

■支援事例 Kさん 62歳男性 区分5 車いす使用

地域移行を希望していた方で、歩行の不安定さからリハビリテーションが進んでいなかったが、訪問リハが入り歩行も可能になってきた。このため、相談支援室の協力も得てGHへの見学や体験をすすめ、ご本人の意向を踏まえた取り組みができ、希望に沿ったGHへの移行をかなえることができた。

〔3〕 次年度に向けて

業務整理を行ったことで利用者との関わる時間を増やすことを目指し、QOL向上を目指した取り組みをすすめていく。本人の意思表示が困難な場合は、日常的観察の中でご本人の好きなことやりたいことをアセスメントしながらすすめていく。高齢化に伴う転倒等のケガ防止について、環境設定や使用している補助具といったものの見直しを行い、安全・安心な生活環境を強化できるように向けていく。また、感染症対策について発生時にBCPを中心とした行動が実施できるよう訓練・研修へも取り組んでいく。

〔４〕利用者状況

【利用者状況】

■年齢区分（令和7年3月1日現在）

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	平均年齢	計
男	0	4	1	3	8	5	3	52.0	24
女	0	2	1	1	7	3	2	52.8	16

最小年齢 25才 ・ 最高齢 76才

■障害支援区分（令和7年3月1日現在）

区分	1	2	3	4	5	6	平均区分
男	0	0	0	3	10	11	5.3
女	0	0	0	3	9	4	5.1

■在所年数（令和7年3月1日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上
男	0	0	0	2	5	5	0	12
女	0	1	0	3	2	1	0	9

■開所日数および利用者数・利用日数（令和7年3月1日現在）

【生活介護】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		22	23	21	23	21	21	22	21	23	22	20	22	261
実人数	男	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	287
延べ利用日数		528	552	504	552	504	504	528	504	552	528	480	506	6242
実人数	女	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
延べ利用日数		352	368	336	368	336	336	352	336	368	352	320	352	4176

■工賃実績（前年対比）

	令和5年度実績	令和6年度実績	備考
生活介護（生産型）	¥1,287 （楽働班8名）	¥3,215 （楽働班9名）	

〔５〕短期入所事業・日中一時事業

■短期入所（定員4名）													令和7年3月31日現在
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月	計
実人数	5	6	4	5	5	7	6	5	4	4	3	5	59
延人数	11	13	11	11	10	12	12	12	5	6	7	9	119
延日数	66	70	57	60	66	55	43	37	19	31	51	61	616

※ 令和6年指定更新

■日中一時													令和7年3月31日現在
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
延人数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
延日数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

※ 令和6年指定更新

〔6〕 令和6年度まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 ◆本人の意向、思いを意識する取組を進める。 ・権利擁護についての内部研修の開催、振り返りを実施する。 ・チェックリストを活用し、検証する。	権利擁護についての意識を職員間で共有し、向上を図る	寮会議や虐待防止・身体拘束適正化委員会などを通して、行動制限に関する確認・検証はできた。権利擁護おける動画視聴を行うこともできたが、定着させることはできなかった。次年度はミニ研修の実施方法を見直しながら、職員間で権利擁護に対する意識の共有ができるようにする。	○
【業務の改善と検証】 ◆検討チームをつくり、各事業のサービス提供の充実を進める。 ・施設入所と日中活動のそれぞれの検討チームを継続し、楽しみの場面の増設(クラブ、教室等の実施)、世代や特性を考慮した活動(外出レク)を実施、検証と改善を進める。	検証、改善を定期的実施する。	各チーム事定期的に会議を実施することはできた。外出レクに関しても予定通り全日程終了できた。足湯。スーパー喫茶等利用者が楽しめる企画を提案。実施できている。	○
【人材確保・育成】 ・専門性を向上するために外部研修への参加や、eラーニングの活用等の施設内研修を実施する。 ・やりがい、意欲につながるコミュニケーションの場や、職場環境について改善を進める。	専門性の向上への意欲が高まった。	外部研修への参加も回数は少ないが実施することができた。内部研修として寮会議でのミニ研修等は実施できたが振り返りなどを行うことができていない。職場環境の改善においても検討から改善に向けた動きが進んでいない。	○
【地域社会との連携】 地域の方やボランティア、関係機関との交流の機会を増やす。	地域との交流の場や、ボランティア受入れの機会が増えた。	クラブ活動を通してボランティアとの関わりは継続できた。外部との交流においても定期的に会議などへ参加できている。ボランティアの受け入れに関しては大きな変化はない。	△

〔7〕 防災・BCP

実施	実施内容	対象	状況
8月21日	【夜間】避難・通報・消火	全利用者	急な訓練実施にもかかわらず、職員の声かけにより安定した動きができた。
12月16日	BCP（感染症）訓練	全職員 全利用者	実際のコロナウィルス発生を受け、BCP発動を想定した動きを実施。素早い対応をすることができた。
2月24日	避難・通報・消火	全利用者	22分団との合同訓練を実施。利用者はとても落ち着いて行動することができていた。
	BCP（防災）訓練	全職員	災害発生時の初動を想定し、利用者の安否確認と誘導、備品の確認と準備を行った。
3月2日	BCP（感染症）訓練	全職員	利用者の不明な発熱により、新興感染症を想定した訓練を実施。初動対応を中心に行なった。
3月6日	BCP（防災）訓練	全職員	LINWORKSを利用した災害発生連絡。緊急連絡と招集による初動を意識した訓練。

〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	52	ベッドや階段からの転落など。歩行時やシルバーカーでの移動時。
服薬	7	薬の持たせ忘れなど

ケガ	7	事故報告の通り
利用者トラブル	4	食事をのどに詰まらせてしまう等
車両	1	公用車 1 台支柱にぶつけてしまう
物品破損	0	
その他	41	連絡忘れ、鍵の閉め忘れ等

《重大事故》 ※県・市町へ報告 1 2 件

日付	種類	内容	対処	対応・対策
5月30日	転倒	起床時にベッドからの転倒	山近記念クリニック脳外科通院MRI検査、平塚歯科診療所通院	歯のぐらつきもあり、食事形態をやわらかいものへ変更。顔のアザは経過確認。
6月25日	転落	階段からの転落	救急車、ドクターヘリにて東海大学伊勢原病院へ搬送	2週間ほどの入院と、退院後の経過確認を行い、歩行の不安定さが継続して見られていたため移動は付き添い対応。
7月9日	骨折	右手甲のヒビ	右手甲に腫れが見られ、りゅう医院へ通院	ギプス装着にて経過観察。3週間ほどで完治。
7月27日	転倒	トイレに行く際に転倒しハンガーラックで右臉上裂傷	山近記念総合病院にて救急対応で5針縫う処置	定期的に消毒のため通院し、1週間で抜糸、経過良好。居室内のハンガーラックの位置を変更。
8月21日	入院	尿路感染のため入院	小田原市立病院へ救急搬送。そのまま入院	衛生面での把握に努めるように周知・実施。
10月8日	転倒	歩行中に足のもつれから転倒	西湘病院、鈴木歯科へ通院	歩行が不安定な方でしたが、荷物を持って歩いていたため、今後荷物は職員が持つように周知。
11月7日	入院	虚血性腸炎のため入院	丹羽病院へ入院	血便が見られたため通院。2週間ほどの入院にて回復。体調不良時の変化に気付けるよう職員には周知
11月9日	転倒	シルバーカー移動時に転倒し裂傷	西湘病院脳神経外科通院、MRI検査と5針縫合	シルバーカーの使用に不安定さが見られ、使用方法について再度職員からレクチャーを行なう。
11月17日	転倒	食堂にて足がもつれ転倒、支柱に顔をぶつけ右臉上を裂傷	西湘病院脳神経外科にてCT検査、5針縫合	自立歩行可能な方ではあるが、筋力の維持を図るため機能訓練等を充実。
12月5日	入院	尿路感染のため入院	山近記念クリニックへ通院し、そのまま入院	ご本人の変化に早期に気付けるよう今後も意識していく。
12月16日	コロナ	コロナウイルスクラスター発生	BCP発動により、感染症対策の措置	居室での過ごしを行い、初動の確認と全利用者の体調管理を実施。
2月5日	入院	脳梗塞・硬膜下血種のため入院	山近記念クリニックへ通院し、そのまま入院	ご本人の変化に早期に気づけるよう今後も意識していく。

〔9〕 苦情解決 件数 0 件

【地域生活支援室二宮地区】令和6年度 事業報告書

〔1〕運営目標

利用者のライフステージに沿いながら、若い世代の利用者への今後に向けた目標を念頭とした支援や中高年齢世代の利用者の方々への医療、介護といったフォーマルな社会資源との連携、また地域社会に存在するインフォーマルな社会資源との繋がりを意識した支援を実施して、利用者の方が地域で安心して生活し暮らす、ということに繋がる取り組みを実施していく。そしてお住いのホームがご自身にとって安心した生活の空間となるように、感染症対策を実施しながら細やかな生活の支援を行っていく。

事業所名	利用定員	住居数	名称
かめりあホーム	32名 (*) うち1名は サテライト住居	6か所	かめりあホーム、かめりあホームⅡ、 ナスカの家(*), 一色ハウス、湘南ビ レッジ、ラパ・ゆりが丘、
ポラリスホーム	13名	2か所	ポラリスホーム、エピナールホーム

〔2〕取り組みと状況報告

新型コロナウイルスが5類になり、行動に関する制限がなくなった中で、感染症に留意しながら、日々の支援を継続していくことが必要になった一年でした。5類になったことで、自由度が高くなる中で制限が必要な部分とそうでない部分を見極め、利用者に伝え、日々の生活を安全に過ごしてもらえるように支援を行った。ホームごとに利用者の状況を踏まえた支援の実施を心がけ、月に一度生活に関する話し合いの場を継続して実施する事ができた。またホームごとの食事会やバーベキューなどを開催し、利用者同士の懇親を深められるよう年間を通して実施した。世代なども異なる利用者同士が良い関係性で生活を送るためにも、こうした機会が大切であると感じた。

職員間の情報共有として、ミスヘルパーの抽出機能やスマートフォンを使用したグーグルカレンダー・ラインワークスなどを活用することで、業務などの進捗状況をタイムリーに確認しながら、現場支援に繋げることができ、緊急性の高い事案等を優先的に行える場面が増えた。世話人との情報共有やコミュニケーションの場面を作ることが必要に感じる為、次年度の課題として進めていく。

個別支援事例：男性 66歳 区分3 かめりあホームで生活していた際には、日中活動から帰寮後すぐに寝てしまうなど、運動量の確保が難しかった。本人からの希望もあり、ホーム移動の検討を行い、ラパ・百合ヶ丘へ移動した事で運動量が多くなった。運動量の確保ができたことで、本人の表情などにも大きな変化が出てきている。

〔3〕次年度に向けて あずさの家に準ずる

〔４〕利用者状況

■年齢区分（令和7年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男	2	10	2	8	5	6	2	45歳	35
女	0	1	0	1	1	1	6	64歳	10
計	2	11	2	9	6	7	8	55歳	45
最小年齢：18才 ・ 最高齢 84才									

■障害支援区分（令和7年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	
男	3	0	17	11	3	0	0	2.3	34
女	0	0	2	5	4	0	0	3.1	11
計	3	0	19	16	7	0	0	2.5	45

■在所年数（令和7年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男	2	1	5	3	9	5	5	4	34
女	0	0	0	1	2	1	4	3	11
計	2	1	5	4	11	6	9	7	45

■開所日数および利用者数・利用日数（令和7年3月31日現在）														
【かめりあホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
延べ利用日数		654	660	688	677	654	660	649	629	646	606	607	639	7,769
実人数	女	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
延べ利用日数		330	335	330	341	337	330	323	300	309	304	290	310	3,839
【ボラリスホーム】		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
実人数	男	11	11	10	10	10	10	10	11	11	12	11	11	128
延べ利用日数		323	337	296	309	304	300	261	270	269	318	284	279	3,550
実人数	女	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
延べ利用日数		30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366

〔７〕令和6年度 まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 虐待防止・身体拘束の適正化など昨年監査で指摘された事項を念頭にテーマに沿った活動を行う。	権利擁護に関する理解を室内全体で浸透させていく。	虐待防止・身体拘束適正化委員会へは常時参加できた。また、委員会主催の研修会には非常勤職員も複数参加し、一定の活動は出来たと感じている。法人横断の取り組みをベースに次年度はGHミーティングなどの場を通して日頃の関わりの振り返りを行うといったミクロの取り組みに繋がりたいと考えている。	△
【人材の確保・育成】 2地区に分かれているが、工夫等を活かして業務効率に繋がられるように検証と改善を進める。	業務の効率化に向けて、検証と改善を実施する。	ラインワークスを用いてヒヤリハット抽出が定着した。そのことが重大事故を防止する下支えとなっていると感じている。後期から預り金の管理業務を移行したため、その業務のフォローづくりを実情に合わせて実施した。利用者にとっても、預り金の内容をタイムリーに伝えていける為、業務としてより確実なものとして確立させたい。	△

【業務の検証と改善】 全体的に共通のテーマでの学習機会作れるようにする。	共通のテーマにそって研修が行えた。	両地区で共通テーマで外部講師を招いて研修を行うことは二宮地区では実現まで至っていない。GH連絡会、自立支援協議会等地域の中で行われる学習機会へ徐々に参加が可能となってきた流れを次年度に繋げていきたい。	○
【地域社会との連携】 地域自治会組織や社協等の活動への参加、交流を図る	地域との連携体制を具体的にしていける。	地域の自治会活動への参加や近隣の方々との交流は継続して行ってきた。次年度はインフォーマルなかかわりに加えて、フォーマルな地域連携推進会議での関りも増えていくことが予想される。両方の関わりを良い機会として事業所にプラスになるように活動していきたい。	○

〔 8 〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
5月、7月 9月、11月 1月、3月	自主点検	職員 利用者	各 GH の検査対象（消火器等）を基準と照らして検査した。年間 2 回、業者委託による検査を行った。各 GH が大規模災害にあった時に、世話人の誘導の元、速やかに避難場所までの移動ができた。
まとめ	年間を通して予定した防災訓練や点検等を実施した。防災委員会の立ち上げまで実施できなかった為、次年度の課題としたい。		

〔 9 〕 リスクマネジメント（事故報告）【10/1-3/31】

種類	回数	内容等
服薬	6	服薬の準備不足・飲ませ忘れ・持たせ忘れ
利用者トラブル	17	
その他	48	設備の不具合・連絡忘れ・手順忘れ

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告

〔 10 〕 苦情解決

苦情件数 0 件

【地域生活支援室小田原地区】令和6年度 事業報告書

〔1〕運営目標

- ・利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。
- ・サービス事業の充実を図るため、業務の検証と改善を推進します。
- ・人材の確保と職員のスキルアップを図ります。
- ・地域活動・行動への参加・協力とともに、地域とのかかわりを深めていきます。
- ・グループホームを統括する地域生活支援室が設置されたことで一体的な運営と支援の平準化を目指すとともに、入居者の方が地域で安心して暮らせるように取り組んでいきます。

〔2〕取り組みと状況報告

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になったが引き続き感染対策を行い、縮小した形だが夏にはBBQを開催し、Xmas会ではイルミネーションを見に行くことが出来ました。しかし、年末にはポプラの家にて陽性者が出て広がり全員が感染してしまい、あずさの家では、年明けにインフルエンザに感染し拡大してしまいました。
- ・第三者評価を受審し利用者アンケート等から業務の見直しをすることが出来ました。
- ・一目置かれる存在のテーマとする「入居者が安心できる存在となる」に向け、ひやりはっとの積極的導入や救急救命（応急処置）の研修会を職員提案で開催しました。
- ・少しずつ地域行事が再開されてきたので、参加してします。
- ・地域生活支援室会議、打合せ等を定期的で開催して、情報共有や改善に取り組み、課題抽出を行い具体的な改善を少しずつ実施できています。

（具体例）自立に向けた生活の立て直しや健康管理や金銭管理を行うことで、社会性を身につけて、より自立度の高いGHへの移行することが出来た。一方、転入してきた利用者への支援において、ご本人の能力や気持ちを受け止めきれず不安定となり、医療保護入院となってしまった。反省をもとに改めて支援に取り組むことに。

〔3〕次年度に向けて

- ・入居者との関係性を大切にして、皆さんのニーズを的確に把握して、ニーズに即した支援が出来るように、業務の課題の見直しを行い取り組んでいきます。
- ・共同生活援助としての求められる支援を正しく提供できるよう各職員が学びをする機会を持ち、権利擁護、意思決定といった考え方を理解していきます。

- ・地域での役割に貢献できるよう、地域行事に積極的に参加していきます。
- ・グループホームの一体的な運営に向け、引き続き支援の平準化を目指して取り組み、より良い支援体制を構築するとともに、地域連携推進会議を開催し、より質の高い利用者支援が展開できるようにしていきます。

〔４〕利用者状況

＜事業所名＞	＜グループホーム名＞	＜定員＞	＜現員＞
あずさの家（定員 21 名）	あずさの家（女性専用）	7 名	7 名
	ポプラの家（男性専用）	7 名	6 名
	※短期入所事業（空床型 1 名）		
	わたくも（アパート型）	7 名	6 名（計 19 名）

■年齢区分

	20 歳未満	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳以上	平均年齢	計
男		2		1	3	3	3	56.2 歳	12
女		1	1		3	1	1	53.7 歳	7
計		3	1	1	6	4	4	55.3 歳	19

最年少：20 歳 ・ 最高齢：90 歳

■障害支援区分

	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男		1	3	3	3	1	1	3.3	12
女				3		3	1	4.3	7
計		1	3	6	3	4	2	3.6	19

■在所年数

	6 ヶ月未満	6 ヶ月～1 年未満	1 年～3 年未満	3 年～5 年未満	5 年～10 年未満	10 年～15 年未満	15 年～20 年未満	計
男			2	1	6	3		12
女	1			1		5		7
計	1		2	2	6	8		19

■開所日数及び利用者数・利用日数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
人数	男	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
日数		353	358	355	363	350	350	368	354	364	354	332	4270
人数	女	6	6	6	6	6	7	8	8	8	6	6	79
日数		180	185	180	186	185	180	203	230	243	240	168	2366

〔５〕短期入所事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	7	7	8	8	6	8	8	9	8	7	7	8	91
延人数	14	14	16	14	13	13	13	14	9	10	14	15	159
延日数	37	36	39	37	31	33	36	37	20	32	33	37	408

〔６〕令和６年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 虐待防止・身体拘束適正化委員会の活動やeラーニングを介した学習を年間を通して行う。	権利擁護に関する理解を室内全体で浸透させていく。	各ホーム会議時に、eラーニングを導入し始めている。加えて利用者の病気に対応した支援に生かすために研修動画をみんなで見ている。	△
【業務の検証と改善】 ヒヤリはっとの集計、そのことを通じた改善をそれぞれの地区ごとに集計方法を考えながら実施する。	ヒヤリはっとを通じた業務改善を多く実施する。	8月より実践し始めたが、まだまだ浸透出来ていない。大きな事故にならぬように、職員の『気づき』を大切にして、職員全体で取り組むようにしていく。	△
【人材確保と育成】 方法：室内共通の職員研修をそれぞれの地区で実施し、必要な教育を行う。	研修の均等化と内容の充実を目指す。	今年度は共通テーマを『救命救急』として、消防署員による応急処置の仕方と業者によるAEDの利用方法について学んだ職員の交流は、一部の常勤職員だけが実施出来た	○
【地域社会との連携】 地域自治会組織や社協等の活動への参加、交流を図る。	地域との連携体制を具体的にしていく。	今年度自治会の組長を担当している地域でのお祭りや防災訓練等に規模は縮小されたが開催されたので参加した9/16 BBQを行い地域の方も参加した	○

〔７〕防災・・・水害時における二次避難場所への避難訓練の実施及び地域における

防災訓練に参加している

〔８〕リスクマネジメント（事故報告）

- ・8月より書式を作成して、取り組みを始めている
- 利用者の転倒事案、職員間の連絡ミスが多く見られたため、見守り方法の確認・強化につなげている。各ホームにグループラインを設定し情報共有している。

〔 9 〕 苦情解決・・・苦情件数 0 件

※入居者とのミーティング等を毎月実施し、暮らしやすい生活・楽しいホームをテーマに話し合いを行っている。

【相談支援室】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 取り組みと状況報告

【全体】

- 1 「親切」「丁寧」「スピーディー」の事業運営を目指して、4つのサービス向上計画をたてている

① 【権利擁護の確立】

意思決定に基づき、意思の表出過程を大切にサービス調整を行う

相談員が参加をした研修内容や月刊誌の記事を基に障害のある方の権利について、またその権利を行使できるように相談員として出来ることを中心に課内会議で意見交換ができた。

② 【職員のスキルアップ】 相談支援スキルの向上

- ・ パーソナリティー障害講演会／虐待防止研修／相談支援の必要性と重要性
- ・ 自立支援協議会相談支援部会／権利擁護部会
- ・ 相談支援初任者研修
- ・ 事業所交流会／法人内交換研修
- ・ GH連絡会

③ 【業務の検証と改善】 働きやすい環境づくり

外部研修に参加をした内容を課内で共有でき専門職として良い学習の機会となった。他法人との事業所交流会と法人内研修も良い学びの場となるので次年度も継続して行っていきたい。

④ 【地域との連携】 安心して暮らせる地域づくり

ご本人やご家族からの要望に対して地域の社会資源の検索を複数行うことで、相談員自身や課全体の情報の蓄積につながり、様々な視点で要望に対して考えて提案することができた。

2 クローバー事業の継続

「おだわら総合相談支援センター クローバー」の委託事業を相談員1名を派遣して行っている

3 令和6年度の報酬改定

人事異動により4月に配属された相談員は社会福祉士の資格所持者なので、“令和6年報酬改定で社会福祉士の資格所持者は相談員として配置可能”となったので、機能強化Ⅰ（相談支援専門員4名以上の配置）の請求を継続出来ている
⇒R6.12 資格取得

【指定特定相談事業所 よるべ沼代】

◆契約ケース件数

○4月年度開始時	229 ケース	
○支援の終了ケース	12 ケース	逝去、市外に転居、介護保険への移行、県外の GH 移行のために相談事業所も移行、就労のため福祉サービス利用終了
○支援の開始ケース	3 ケース	
○3月末現在の契約ケース	220 ケース	

知的	189				精神	21		身体	4		
A1	A2	B1	B2	1級	2級	3級	身1	身2	身3	身4	
27	46	73	43	1	14	6	2	2	0	0	
区分	220										
6	5	4	3	2	1	未					
24	26	40	41	43	1	45					

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計	
男性	2	21	28	30	31	19	6	0	137	220
女性	0	14	17	13	25	10	3	1	83	
サービス	独居	施設入所	GH	在宅（同居）	短期入所	身体介護	家事援助	通院等介助	生活介護	訪問介護
	12	44	71	96	33	1	8	5	85	4
就労	就労移行	就労定着	A型	B型	機能訓練	生活訓練	デイケア	日中一時	移動支援	訪問入浴
22	1	1	4	97	0	0	5	12	17	0

令和6年度 相談支援課 支援対応実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
モニタリング	18	17	22	15	24	37	10	9	15	23	23	47	260
サービスの更新 （計画案・計画）	10	11	13	15	29	15	16	11	10	13	22	6	171
サービスの追加・変更 （計画案・計画）	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	5
ケース会議	8	7	6	7	7	4	5	8	6	4	8	10	80
家庭・事業所訪問	10	10	7	4	8	0	5	11	10	3	8	5	81
個別面談 （電話対応含む）	115	123	106	107	87	88	112	106	132	96	143	137	1352
見学（体験）同行 通院同行	3	7	4	14	2	1	6	5	3	3	4	4	56
その他支援	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	4
支援の終了	2	0	0	1	2	1	1	1	1	1	1	1	12
支援の開始	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3
新規依頼	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	4
支援対応件数	166	176	158	165	160	146	156	152	178	148	210	213	2028

◇ケースの傾向

- ①親亡き後を考えているご家族からの GH の利用のための調整
- ②8050 世帯の支援のための介護保険との連携、が多い傾向にある。

◇定期的なモニタリングで

今年度より入所施設を利用されている方の『地域移行』のご本人の意向をお聞きし、施設職員さんにお返しをして、今後の支援の方向性のきっかけとしていただいている。

【委託相談 クローバー】

◆相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	7	8	7	9	7	6	6	8	3	5	2	3	71
知的	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1	2	10
精神	5	5	4	3	4	4	2	4	1	3	0	1	36
身体	0	2	1	3	2	1	0	1	0	1	0	0	11
児	1	1	2	2	0	0	2	2	1	1	1	0	13
終了	2	2	1	2	2	1	3	7	4	6	5	16	51

◆相談内容

福祉サービス	障害の理解	健康・医療	傾聴	保育・教育	人間関係	家族関係	家計・経済	住居	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他
28	1	3	0	1	1	3	3	3	11	10	3	0	1

◆クローバー内のよるべ会の担当地区（介護保険の包括支援センターに合わせて割り振り）とよかわ、かみふなか、そが、しもそが、こうづ、たちばな

◆地域で暮らす精神障がいのある方やそのご家族からの相談が多い

◆地域生活支援拠点等事業のコーディネーターとしてケースのアウトリーチ

◆電話当番：週3回（月曜 AM／火曜 PM／土曜 PM）

⇒関係機関からの連絡、生活に不安がある方からの電話の傾聴

◆おだわらピアステーションの事務局

- ・月1回ピアさんとの定例会
- ・フリースペース（毎月第3金曜日）の運営
- ・ピアーズ（おだわらピアステーション主催の精神障がい者対象の座談会）の運営補助

6/15、9/21、12/21、3/15 計4回実施

・学生さんや民生委員さんなどを対象としたピアさんの体験発表

- ・7/5 精神保健ボランティア講座
- ・10/18 小沢看護専門学校学生さん向けの講座
- ・1/10 市民学校での体験発表

・ 3/10 精神障がい者地域生活支援部会とピアステーションフォローアップ講座の合同開催。ピアさんの体験談を講演

・ 10/26（土）開催のハートフェスタ（精神障害者の啓蒙活動）の実行委員会

◆小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町自立支援協議会運営委員

6/28、11/28、2/27

◆小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町自立支援協議会

①相談支援部会

9/5

②精神障がい者地域生活支援部会

6/5、10/16、3/10

精神障害に対する啓蒙と地域の方への情報提供が主な議題

◆（保健事務所主催）地域精神保健福祉連絡協議会地域移行部会

7/8、1/24、2/28

精神科病院の長期入院についてが今年度の主な議題

【コスタ・二宮】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

① 【就労継続B型＝コスタ・二宮/食品部門】

- ・食品製造作業を主体として、オリジナル商品の強みを生かして収入を増加させ、工賃支給額の向上に努めます。また利用者個々の適性を活かして、適切な作業提供していきます。

【生活介護＝SP企画】

- ・豊かな社会生活を過ごすために生産活動・学習活動・創作活動等のプログラムを個々のニーズに基づき提供していきます。「はたらきたい」という方のために、安定した作業の確保を行っていきます。

② 【その他】

- ・開所日を利用して、充実した余暇支援の提供をしています。

〔2〕 取り組みと状況報告

- ① 令和6年度も原材料や燃料光熱費などの物価高騰が続いています。製パン・製麺事業の収入・支出は共に増加しましたが、収支は昨年を上回りました。令和6年8月17日付で、委託店舗の商品の値上げを実施しています。引き続き収入を圧迫しないように、支出を抑える対応をしました。令和7年度は施設関係の値上げを検討していきます。

- ② 利用者支援に関しては、月次班別会議の中で支援計画の進捗状況等を確認し、他班の相互利用で柔軟性のある支援内容に努めました。また計画相談や関係機関との連携も意識し、コスタ会議に「よるべ沼代」と「地域支援室」・「相談支援室」職員の参加協力を得ています。

■事例 KTさん 44歳・男性・区分4・SP企画所属。「工賃を稼ぎたい」「以前所属していた製パンで働きたい」との希望から関係機関や保護者と調整をしました。衛生面の課題はありましたが、実習を体験しやってみたいとのことで、7月15日より製パンA班で作業開始。前向きに作業に取り組み、工賃が増えた喜びを実感されたようです。ご本人ご家族共に満足されています。グループホームの体験も合わせて行なっています。

- ③ SP企画では作業室の区画を見直し、安心して活動できるよう配慮しました。生産活動では小田原提灯製造とクラッチパーツ、自主製品である紙袋、マグネットも継続しています。また個別支援では、毎月の料理教室や買い物・外食・図書館利用等の外出支援を実施し、支援の質の向上を果たしました。
- ④ 余暇支援では、開所日にクラブ・委員会活動を実施。3つのグループに分かれて外出や活動を楽しみました。また日帰り旅行や夏祭り、40周年式典、新年会

などに参加し楽しみの機会を作りました。

◆ 3年間の収支状況

	製パン班(B型事業)	製麺班(B型事業)	SP企画(生活介護)
令和4年度	(収入) 11,811 千円 (収支) 660 千円	(収入) 7,038 千円 (収支) 370 千円	(収入) 2,126 千円 (収支) 92 千円
令和5年度	(収入) 12,507 千円 (収支) 1,202 千円	(収入) 7,548 千円 (収支) 479 千円	(収入) 1,142 千円 (収支) △206 千円
令和6年度	(収入) 12,871 千円 (収支) 1849 千円	(収入) 8,112 千円 (収支) 903 千円	(収入) 899 千円 (収支) 130 千円

■工賃実績（前年対比） 令和5年4月～令和7年3月までの一人当たりの月平均			
	令和5年度実績	令和6年度実績	備 考
生活介護 (生産型)	目標(3,000)	目標(3,000)	
	3,173	1,375	
就労継続支援B型	目標(23,100)	目標(23,100)	
	21,081	21,664	

〔3〕次年度に向けて

- ① 「B型事業」では、原材料や水道光熱費他の値上げが継続されると想定されるので、経済情報を把握して価格調整や経費節減を行っていきます。また新規委託店舗の開拓や施設関係の値上げなどを含めて、収益につながる活動を積極的に行います。「一目置かれる存在」として地域社会に知ってもらう為、秋祭りの開催や、二宮・大磯町の福祉祭りや商工会のイベントやバザーなどに出店して、パン・麺・焼き菓子の知名度向上と売り上げ増を目指します。
- ② 「生活介護事業」では、軽作業、受注作業を中心とする班と創作・自主製品作成を中心とする班に分けて活動を行なっていきます。受注作業量が減少したので、新規作業の獲得も課題とします。自主製品である紙袋やマグネットの他に、新たな商品開発に努めます。また個別プログラムの充実を図り、理学療法士の機能維持訓練や看護師による健康指導など、継続して行なっていきます。
- ③ 第三者評価の審査結果から課題や気づきがありましたので、満足度の向上やより良い施設運営の為に、改善の機会として取り組みます。またクラブ・委員活動については、美化・清掃・情報発信などを通じて施設生活の充実を図る為に、職員と利用者一丸となって行なっていきます。意思決定支援や権利擁護を意識して、開所日の中で余暇支援を自分たちで決められる機会を設けて、利用者主体で活動できるような支援に努めます。
- ④ 自然災害と感染症 BCP の訓練と研修は年度末までに実施できました。次年度は9月と12月に計画し、内容を検討して効果的に行います。

〔4〕利用者状況

■年齢区分（令和7年3月31日現在）									
	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	平均年齢	計
男(B型)	0	2	2	5	3	1	0	44	13
女(B型)	0	0	3	2	3	3	1	51	12
男(生介)	0	4	3	3	0	4	1	45	15
女(生介)	0	0	0	0	2	0	3	65	5
最小年齢　：　21才　　・　　最高齢　79才									
■障害支援区分（令和7年3月31日現在）									
	非該当	1	2	3	4	5	6	平均区分	計
男(B型)	3	0	2	3	5	0	0	2.6	13
女(B型)	3	0	2	5	2	0	0	2.2	12
男(生介)	0	0	1	4	8	2	0	3.7	15
女(生介)	0	0	0	3	2	0	0	3.4	5
■在所年数（令和7年3月31日現在）									
	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	計
男(B型)	0	0	3	1	2	3	1	4	13
女(B型)	0	0	1	3	5	2	1	0	12
男(生介)	0	0	9	3	1	1	1	1	15
女(生介)	0	0	1	1	1	1	1	0	5
■開所日数および利用者数・利用日数（令和7年3月31日現在）									
【生活介護（生産型）】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		22	22	20	23	20	20	127	
実人数	男	14	15	15	14	14	14		
延べ利用日数		300	300	287	278	227	249	1641	
実人数	女	7	7	6	6	6	6		
延べ利用日数		120	119	99	100	90	94	622	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		23	22	22	21	19	22	256	
実人数	男	15	15	15	15	15	15	❖	
延べ利用日数		295	289	265	244	239	261	3,234	
実人数	女	6	6	5	5	5	5	❖	
延べ利用日数		114	98	78	80	78	75	1,145	
【就労継続支援B型】		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		22	22	20	23	21	20	128	
実人数	男	13	13	13	14	14	14		
延べ利用日数		273	268	244	295	236	242	1558	
実人数	女	11	12	12	12	12	12		
延べ利用日数		222	214	210	228	188	197	1259	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所日数		23	22	22	21	19	21	256	
実人数	男	14	13	13	13	13	13	❖	
延べ利用日数		266	260	262	244	215	247	3,052	
実人数	女	12	12	12	12	12	12	❖	
延べ利用日数		214	216	211	196	184	197	2,477	

〔5〕 令和6年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

具体的活動	到達点	実施状況	評価
権利擁護 ◆開所日で利用者の権利擁護の確認機会を設定する。職員・利用者共通の学習会を年2回開催。職員向けの権利擁護と虐待防止自己チェックを年2回の実施。	設定した目標回数通り、研修・自己チェック他を実施できた。学習効果を確認し情報共有できた。	権利擁護や虐待防止自己チェックは行なえたが、フィードバックが少し弱かったと感じる。法人研修に非常勤職員も多数参加してもらえたので、次年度も学習の機会を作っていきたい。また利用者に対してもEラーニングを使い学習する機会を作っていければと思う。	△
人材育成 ◆法人人材育成部会の示す方向性に従い、協力して施設見学会の開催や障害者雇用定着に向けて、定期的に見直しをする ◆Eラーニングを活用した学習会を毎月1回以上定期的に行なう。活用の幅を広げ学習効果をPDCAサイクルで管理する。	人材確保に向けた準備や計画が行なえた。労働環境や人材育成について職員チームで対応できた。Eラーニングの学習効果が得られた。	人材育成部会が主催する施設見学会に積極的に参加できた。障害者雇用についても関係機関と連携しながら調整できました。 Eラーニングを使った学習は毎月行なうことは難しかったが、テーマを決めて実施でき、職員間での情報共有や気づきに繋がったと思う。次年度は毎日決まった時間にEラーニングを視聴できる機会を作りたい。	○
業務検証と改善 ◆コスト＝作業班会議と主任会議を毎月計画的に行ない、業務改善と検証を議題としてPDCAサイクルで実施。チームで対応する。 ◆SP＝個別ニーズの充実と実現のために、主任会議の議題として個別ケース会議を実施する。合わせて現行生活介護メニューの見直しを行なう。	各会議で改善の機会や課題抽出を確認し、改善につながった。顧客満足度調査を年1回実施し、ニーズや課題を抽出して、顧客サービスの維持・向上が図れた。	概ね達成できました。各班会議や主任会議、コスト会議は実施できた入所や地域支援室、相談支援室とも連携を取り、次年度も継続して行なえればと思う。第三者評価の審査結果から課題や気づきを確認できました。施設サービス向上の為、改善の機会を作ります。今年度は外部機関による満足度調査を実施しました。	○
地域社会との連携 ◆二宮町・大磯町の地域社会との関わりに積極的に参加する。パラスポーツの継続。自立支援協議会、社会福祉協議会、工業団地、地域防災等、近隣自治会など社会資源となる組織との関係性や繋がりを維持・発展させる。	二宮・大磯町での関係性を継続し発展できた。事業所と商品の認知度が向上して、地域社会と具体的な連携ができた。	自立支援協議会への参加や二宮工業団地の定例会、イベントへの出店など地域との関係性は継続できました。コスト二宮の商品の認知度も向上したと思います。二宮町主催のボッチャ大会へ参加した後、運動クラブで指導者の方を呼ぶことができたが、継続できなかった事を反省する。次年度はもう少しクラブやイベントを通じて、活動の幅が広がるようにします。	○

〔6〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4 月	水消火器を使った消火訓練体験	利用者 職員	水消火器を使用し、消火器の使い方消火のやり方を学習。
9 月、3 月	避難誘導訓練と初期消火・通報訓練	利用者 職員	地震、火災が発生したと想定し避難誘導訓練の実施。自然災害が増えていることや備蓄品の用意などの話をする

〔7〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	4	セレナ人身事故・保冷車エアコンのガス漏れ修理。 マイクロバスミラー破損修理・エブリ納品先の駐車場で立ち往生。
物品破損	1	コスタ内雨漏り修繕。
その他	2	ラベルプリンターの不具合 製パン、製麺ともに髪の毛など異物混入に気付き対応。

《重大事故》 ※R6 年度は県・市町へ報告は 1 件。

R6 年 5 月 29 日 8:25 頃、送迎中に一色インターで自転車と接触する人身事故発生。同乗利用者 3 名と運転手にけがはなし。被害高校生は打撲、擦過傷で救急搬送。神奈川県、二宮町、小田原市、中井町へ報告。

〔8〕 苦情解決

苦情件数 0 件

【 梅香園 】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

- ・利用者さんに安心して安全なサービス提供をします。
(ヒヤリはっとや、気づきを検証し改善策等の確認をします。)
- ・サービス事業の充実を図るため、業務の検証と改善を推進します。
(利用者の適性や特性を考慮した活動内容等を検討し、最善な利用者支援を展開します。)
- ・人材の育成と職員のスキルアップを図ります。
(オンライン研修の充実、外部研修への参加等職員研修の充実を図ります。)
- ・地域活動・行事への参加・協力とともに、地域への啓蒙活動を推進し、地域・関係機関との関りを深めていきます。
(地域行事への参加やボランティアの受入れ等地域との交流を図るとともに、はーとふる通信を定期発行します。)

〔2〕 取り組みと状況報告

感染症予防として毎日の検温、消毒等の対応を継続。感染症対策をしながら行事、各クラブ活動等余暇を実施し、利用者の楽しみにつなげた。感染については、利用者や職員で計17人のコロナ感染があったが、重篤な症状には至らなかった。

■個別支援計画の事例 I.Kさん 20歳男性 区分6。てんかん発作が頻繁にあり、転倒による怪我防止のため、ヘッドギアを着用。支援学校卒業後の環境の変化もあり、家庭や利用中の事業所（生活介護、日中一時、）での他害が頻繁となり、日中活動のサービス利用継続が難しい状況となる。医療や関係機関と連携し、本人の状況に合った環境づくりの模索が始まる。環境が異なる場面（事業所）での変化への期待もあり、8月より梅香園の週2日利用を開始。「新しいことに挑戦し、充足感につながることを見つける」を個別支援計画の目標として、到達点「安定して登園する」に向け支援を進める。色々な活動を試行した中で、作業としてマスク箱詰め作業を主に取り組む。・決めた量をやりきること達成感につながるよう仕事量の調整。・絵カードを利用し、見通しを持てるよう進める。楽しみとなる時間について・創作が好き→ご家族へのメッセージカードづくり・相撲が好き→力士の四股名、トイレットペーパーの芯でトントン相撲等を昼休みの遊びとして職員とのコミュニケーションにも活用した。支援の経過としては、逸脱行為も見られるが、職員間で統一した支援を実施することで粗暴行為の抑制につながった。また、日によって差があるが、安定して作業に取り組む時間が増えた。行動障害のある利用者に対する職員の意識も向上し、本人とのより良い関係づくりにもつながった。目標の達成には至っていないが、一事業所では受入れが困難となる状況でも、関係機関が連携することで、地域の中で受け止められるケースもあると感じる。

〔3〕次年度に向けて

個別支援計画の重要性を再認識し、進捗状況を定期的に確認し次の支援につなげる。また、チーム支援への意識形成に向けて、会議が職員相互の理解、課題の共有の場となるよう工夫する。思いやりを持って寄り添い、本人の楽しみや成長につながる活動を目指し検討、改善を進める。

〔4〕利用者状況

■年齢区分 最小年齢：19 歳 最高齢：90 歳 (令和 7 年 3 月 31 日 現在)

	～20 歳	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	80 歳～	平均	計
男	1	5	5	3	9	2	2	1	46.7	27
女	0	5	5	5	7	2	0	1	43.3	26
計	1	10	10	8	16	4	2	2	45.0	53

■障害支援区分 (令和 7 年 3 月 31 日 現在)

	なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均	計
男	4	1	4	3	7	4	4	3.9	27
女	3	0	4	3	8	3	5	4.1	26
計	7	1	8	6	15	7	9	4.0	53

■令和 6 年度 新規利用者年齢

	20 歳未満	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	計
男	生介 1	0	0	0	0	1
女	0	継 B 1	継 B 1	0	生介 1	3

■開所日数及び利用者数・利用日数

生活介護	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開 所 日 数	22	22	21	23	20	20	23	21	22	22	19	21	256
実 人 数	24	24	24	24	25	25	25	25	26	26	26	26	300
延 日 数	477	469	447	481	428	435	503	447	407	452	431	454	5431
就労継続 B	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開 所 日 数	22	22	21	23	20	20	23	21	22	22	19	21	256
実 人 数	26	25	25	25	25	25	25	27	26	25	24	23	301
延 日 数	497	497	481	525	419	424	490	471	435	453	388	423	5503

■工賃実績（前年対比）令和 6 年度 4 月～3 月までの一人当たりの月平均金額

	令和 5 年度実績	令和 6 年度実績	備 考
生 活 介 護	¥5,951	¥5,763	
就 労 継 続 B 型	¥22,126	¥24,841	

〔5〕日中一時事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	5	4	5	5	4	5	6	6	4	5	6	5	60
延人数	46	46	44	49	40	42	50	44	45	42	41	42	531
延時間数	121	125	122	136	115	116	144	124	119	117	117	114	1474

〔6〕令和6年度まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護の確立】 職員研修を実施してスキルアップを図るとともに、自己チェックを行い、権利擁護に対する意識を高める	研修と自己チェックを行う事で、権利擁護に対する意識が高まった	セルフチェックを実施し分析まで行ったが意識向上には至らず、今後は研修や結果共有を通じて改善を図り、家族の意見も取り入れて支援環境を整備していく。	△
【業務の検証と改善】 業務改善に向け現場職員からの意見抽出の機会と仕組みを確立する。	課題を抽出、共有することで、職場環境を整備して、よりよい利用者支援につながった。	業務改善委員会内に留まり、現場に浸透せず改善に至らなかった。今後は全体で共有・提案できる体制が必要と感じた。	△
【人材確保と育成】 法人内外での研修を計画、実施し、専門性の向上を図る	職員の専門性が向上し日々の支援に活用できた。	個別研修の情報発信により数名が参加し、全体研修や終礼でのスペシャルラーニング視聴など専門性向上に取り組んだ。	△
【地域社会との連携】 ・障がい者の啓蒙活動 ・地域と連携した行事運営 ・「はーとふる通信」の発行	・地域の方と一緒にあった行事の運営等 ・「はーとふる通信」を年1回発行	地域との行事は実施できなかったが、演者さんやボランティア受け入れを行った。今後は交流方法を検討し、通信の発行や委員会活動も見直していきたい。	○

〔7〕防災

実施	実施内容	振り返り
5月29日	【災害発生 避難訓練】津波警報、洪水警報に備えて高台への避難	徒歩、車にて避難。利用者の特性に配慮し、今後も経路や避難場所の見直しや検討を進める。
8月30日	【災害発生 情報伝達】「171災害伝言ダイヤル」の利用体験を実施。	操作に慣れるためにも、繰り返して利用する必要あり。
12月19日	【避難訓練】 避難・初期消火・通報訓練	消火器の設置場所について再検討。訓練時の係について再検討。
2月25日	【災害発生・避難訓練】地震警報発令・避難・消火・通報訓練	地震を想定しての訓練を実施。各利用者の特性を考慮した避難方法について今後も検討が必要。

〔８〕 リスクマネジメント（事故報告）

種 類	件数	内 容 等
転倒	12	歩行中のつまずき。車いすの方が一人で立ち歩き。職員の不注意
服薬	7	落薬、錠数違い、飲ませ忘れ他。
怪我	5	転倒による擦り傷、打撲等。
車両	3	車両との接触事故。ガードレール接触。
物品破損	2	活動中の椅子の破損。作業中の電気コードの切断。
その他	60	確認不足/連絡ミス他。
合 計	89	

■＜重大事故＞ ※県・市町へ報告 2 件

日付	内 容	対応・対策
1/17	職員とのやり取りの中で、興奮。適切な声かけが出来ず、作業室から飛び出し所在不明。	近所を捜索し発見。しばらくして落ち着き帰園するが、その後も精神的な不安定な日が続き、登園拒否。入居先の生活場面でも落ち着かず、保護入院。
2/18	アルミ缶つぶしの作業中に手袋を外してしまい、缶の飲み口で右手薬指を負傷。	整形外科を受診。右手薬指第一関節付近を2針縫合。同様の危険が伴う作業に関しては、手袋着用等の状況を常に確認する。

〔９〕 苦情解決 ■ 苦情件数 0 件

【わらべの杜】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

- ① 社会的養護を必要とされている児童に対し、安心・安全な“暮らし”を提供します。
- ② 入退所における空床がないよう事前の調整等を図り、通年通して安定した運営となることを目指します。
- ③ 円滑な地域移行となるよう早期の移行調整を図り、児童にとって最適な暮らしの場へつなげていくようにすすめていきます。
- ④ 児童の権利擁護に関しては、児童虐待の防止と職員の意識向上に今後も引き続き努めていきます。

〔2〕 取り組みと状況報告

- ・昨年度の卒園生は4名。グループホームへの移行が3名。入所施設（自立支援型）への移行が1名で、全員3月末に移行することが出来ました。
- ・新規入所の受け入れについては、4月に2名、5月に1名、6月に2名の措置入所児童と令和7年3月に1名の契約入所と1名の措置入所児童の受け入れを行いました。しかしながら定員40名に対し大幅な定員割れの状態が続いている事や今後の安定した運営を考え、県へ障害児入所施設の需要について伺いに行くと共に、行動面で課題がある女子児童の移行についても改めて相談に乗って頂くよう依頼を行いました。その結果、女子児童の他施設への移行が決まり、現在移行の準備と共に新規受け入れ児童の検討に入っています。
- ・短期利用の新規契約は16名。3～5名の児童が定期的に利用しています。一時保護については積極的な受け入れを行い。昨年度一時保護したケースのうち、年度内に3名と今年度2名が入所に繋がっています。
- ・こども会議の実施及び満足度アンケートは継続的に行い、子ども達が行きたい場所や食べたいおやつの希望を叶えるなど、満足感を得られるよう取り組んでいます。また、2寮では生活全般に対してのアンケートを実施し児童の生活がより豊かになる方法を探っています。
- ・光海学園さんと職員交換研修を実施しました。今回は2名の職員が参加し、ユニット制と大舎制の違いに触れる良い機会となりました。

〔3〕 次年度に向けて

- ・児童相談所と密に連携を図りながら空床を減少し安定した運営となる事を目指します。
- ・高等部児童の移行が円滑に行われるよう各関係機関との連携強化に努めると共

に、児童の日常生活場面における経験が少しでも増えるよう支援します。

- ・光海学園さんとの職員交換研修は継続して行いながら、職員の学ぶ・感じる機会を創出していきます。

〔４〕利用者状況

【利用者状況】

■年齢区分（令和7年3月31日現在）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18～19歳	20歳～	平均年齢	計
男	0	8	3	10	3	0	15.0	24
女	0	3	3	1	1	0	13.4	8
措置	0	10	6	11	4	0	14.5	45.5
契約	0	1	0	0	0	0	11.0	12

最小年齢：7才・最高年齢18才

■在所年数（令和7年3月31日現在）

	6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年以上
男	3	1	4	3	3	6	4	0
女	0	1	2	0	2	3	0	0

■開所日数および利用者数・利用日数（令和7年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
開所日数		30	31	30	31	31	30		
実人数	男	21	21	22	22	21	21		
延べ利用日数		630	651	660	682	651	630		
実人数	女	7	7	8	8	8	8		
延べ利用日数		210	217	240	248	248	240		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
開所日数		31	30	31	31	28	31	365	
実人数	男	21	21	22	22	22	24	260	22
延べ利用日数		630	630	682	682	616	774	7,918	660
実人数	女	8	8	8	8	8	8	94	7.8
延べ利用日数		248	240	248	248	224	248	2,859	238

■療育手帳程度別在所者数（令和7年3月31日現在）

	最重度	重度	中度	軽度	
					手帳無し
男	1	1	2	20	0
女	0	1	0	7	0

■令和6年度新規入所児年齢（令和7年3月31日）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計
男	0	5	1	0	6
女	0	1	0	0	1
措置	0	5	1	0	6
契約	0	1	0	0	1

■令和6年度退所児者の状況①（令和7年3月31日）

	6歳未満	6～11歳	12～14歳	15～17歳	18歳以上	計
男	0	0	0	1	3	4
女	0	0	0	0	1	1
措置	0	0	0	0	4	4
契約	0	0	0	1	0	1

■令和6年度退所児者の状況②（令和7年3月31日）

	障害者支援施設	グループホーム	在宅	他
男	0	4	0	0
女	1	0	0	0
措置	1	3	0	0
契約	0	1	0	0

〔5〕 短期入所事業及び一時保護

【利用者状況】													
■ 短期入所													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	3	4	4	5	5	3	3	3	3	1	3	3	40
延べ人数	5	4	5	5	6	4	4	4	3	1	4	3	48
延べ利用日数	13	12	18	10	22	12	16	15	5	2	10	6	141
■ 一時保護													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	5	4	0	1	2	1	5	6	3	1	5	5	38
延べ人数	5	4	0	1	2	1	5	6	3	1	5	5	38
延べ利用日数	19	18	0	3	21	5	23	61	34	34	42	67	327

〔6〕 令和6年度まとめ

具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護】 (1寮) 意思決定の機会の創出 (2寮) 生活の中での満足度を上げる (3寮) 子どもの希望を十分に取り入れたレクの実施	各寮で自動の満足度アンケートの実施と分析、評価結果を児童の思いとして受け止め、QOLの向上に向けた取り組みを行う。	各寮で、レクレーションや担当外出についての行先や食いたいもののアンケートを実施。それに基づき外出先を検討。子どもの希望を叶える外出を実施している。また、2寮では生活に関するアンケートを実施し、子ども自身の満足度が向上するために必要な事を子どもを交えて話し合い機会を設けている。	○
【業務の検証と改善】 調理場への食事の欠食・追加の際のペーパーレス化と効率化を図る	ICT部会との連携や機械の活用によりペーパーレス化を目指す	追加・欠食についてペーパーレス化を検討してきた。厨房側でICT機器を使用したやり取りが日常的に難しいとの意見もありペーパーレス化を進めることができなかった。	×
【人材確保・育成への取り組み】 実習スケジュールを見直しその効果を見る	実習スケジュールに可能な限り事業所照会や児童発達支援での実習を入れ、法人としての魅力発信に繋げていく	法人内の事業所見学やドームでの1日実習を行ってきた。様々な経験が出来てよかったとの声は上がるが、入職希望までには至らなかった。	△
【地域社会との連携】 様々な状況を見定め、地域行事の参加をしていく。	まちづくり委員会、地域行事への参加と、地域における事業所の役割や必要性が向上	定期的に行われる「まちづくり委員会」に参加。地域の子供達を対象にした草木染や風揚げが実施されわらべの杜の児童も参加している。また、今年の1月には橘北地区の駅伝チームの一員として中学生が参加している。	○

〔7〕 防災

実施月	実施内容	対象	振り返り
4月・6月・9月・10月・11月・12月 1月・2月・3月	避難・通報 消火	全利用者	入所期間の長い児童が多く、訓練の積み重ねを感じた一年でした。垂直訓練も実施出来てよい経験となりました。
5月・7月・8月	【夜間】避難 通報・消火		

〔8〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	1	就薬の服薬忘れ
ケガ	2	車いすから立ち上がり右頬に擦過傷。 TV ボードへ顔面をぶつけ右瞼切傷
利用者トラブル	0	
車両	0	
物品破損	0	
その他	3	所在不明 他者の財布窃盗及び金銭使用 マイクロバスからの児童降車忘れ

〔9〕 苦情解決 件数 0件

【どーむ（童夢）】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

安定した事業運営を目指し、活動を通して広く周知をしていきます。

また、療育を必要とされている児童に対し、可能な限りサービス提供できるよう関係機関との調整を図り、児童に丁寧かつ慎重に支援し、保護者への支援も実施しながら、児童の健やかな成長をサポートしていきます。

児童の権利擁護への意識を持ち、関わり方の工夫と自己研鑽に努めていくようにいたします。

〔2〕 取り組みと状況報告

「発達支援」「家族支援」「移行支援」を支援の3本柱として支援にあたってきました。

発達支援では、発達特性がはっきりとみられる児童が多く、一人一人の姿を正しく把握し気持ちに寄り添い支援する中で、それぞれの持つ力を発揮し自信を持って成長していくことを目指し支援してきました。全職員が共通認識のもと支援できるように、終礼や会議で丁寧に情報共有を行ってきました。

家族支援では、茶話会を4回開催できました。1回目をお楽しみイベントとして開催し、茶話会に足が向きにくい保護者にも参加しやすい形とすることで、多くの参加があり、保護者同士のコミュニケーションの場も作ることができました。4回目の茶話会では、小田原市基幹相談センター「クローバー」の相談支援専門員の方に講話していただき、今の時期に大切にしておきたいこと、少し先を見据えたお話をしていただき、有意義な会とすることが出来ました。

移行支援では、どーむの小集団でつけた力を園の大きな集団でも発揮できるようになることを目指し、併行通園先や関係機関と情報共有し整合性のある支援となる様に努めました。また、要保護児童対策地域協議会対応の児童に対してはネットワークミーティングに参加し関係機関との情報共有を密にし、丁寧に支援を進めてきました。

令和6年度は8名の年長児がおり、安心した環境で就学を迎えられるように関係機関とも連携し支援を進めてきました。

職員育成としてどーむの支援方針、療育の考え方、各事例を通し職員の支援力向上を図ってきました。全職員を対象にしたどーむ研修では、児童発達支援センター「ほうあんふじ」児童発達支援事業所「つくしんぼ教室」を見学し、支援方法だけでなく、防災や虐待対応などについての話を聞くことができ、支援力向上につながる良い機会となりました。

〔3〕次年度に向けて

特性や相性などを考慮したクラス編成を行い、落ち着いた環境で支援できる体制を整え、児童一人一人が良い時間を過ごす中で力をつけていかれるように支援していくことを目指していきます。

年少児から利用する児童が多くなっているため、必要に応じて週2～3回の利用を検討し、スモールステップでの経験を積み上げる中で力をつけ、見通しを持った支援をしていくことを目指していきます。

家族支援として、茶話会の内容などを検討し、さらに充実した支援を実施できるように取り組んでいきます。また、児童のより良い育ちを支えるために、ご家族の心配事に寄り添い迅速かつ丁寧な支援を心がけ、安心した環境の中で子育てをしていかれるように支援していくことを目指していきます。

引き続き丁寧な支援を進める中で、地域のニーズを確認しながら安定した運営となるよう取り組んでいきます。

〔4〕利用者状況

【利用者状況】

■年齢区分（令和7年3月31日現在）

	3歳未満	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児以上	平均年齢	計
男	0	0	7	5	6	4.9	18
女	0	0	3	2	2	4.8	7

最年少：4才

■在所年数（令和7年3月31日現在）

	3ヶ月未満	3ヶ月～6ヶ月未満	6ヶ月～1年未満	1年～2年未満	2年以上
男	4	3	5	4	2
女	2	2	1	1	1

■開所日数および利用者数・利用日数（令和7年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数		21	21	21	20	17	20	22	22	20	19	19	21	243
実人数	男	7	9	9	10	12	12	14	15	15	17	18	18	156
延べ利用日数		27	29	32	32	34	46	50	57	62	63	64	61	557
実人数	女	3	3	3	3	3	4	4	5	5	6	7	7	34
延べ利用日数		22	35	31	25	26	30	36	35	32	33	42	31	209

■住所地（令和7年3月31日現在）

	小田原市	中井町	大井町	松田町	開成町	二宮町	他
男	13	5	0	0	0	0	0
女	5	0	1	0	0	1	0

■入退所状況（令和7年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	男	0	2	0	1	2	0	2	1	0	2	2	0	12
	女	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	5
退所	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6
	女	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3

〔5〕 令和6年度まとめ

項目	具体的活動	到達点	実施状況	評価
人材確保・育成	学生への学習・実習の機会を提供する。	全ての実習生に対し、学習と実習の機会を提供できた。	わらべの杜の実習生を受け入れた。また、8月には10日間、どーむで実習生を受け入れ活動、業務について知ってもらう機会となった。	○
地域交流会との	保護者同士のネットワーク作りと保護者との意見交換で得られた情報を教育委員会や併行通園先へつなげる。	全ての保護者に対し、ネットワークの構築と関係連携につなげることができた。	多くの保護者に参加してもらえるように6月には、お楽しみイベントを開催し、親子で楽しむ中で保護者同士の交流もできるように進めた。2月の茶話会では、基幹相談支援センタークローバーの支援員の方に講話していただき有意義な会を開催することが出来た。関係機関、併行通園先とも連絡を取り合い情報共有をすることができた。	○

〔6〕 防災

実施	実施内容	対象	振り返り
毎月1回	避難・通報 消火	全利用者	曜日を変え毎月実施。事前予告なしでも落ち着いて避難することができていた。防災頭巾を被れるかなど児童の様子について確認ができた。

〔7〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	
服薬	0	
ケガ	0	
利用者トラブル	0	
車両	2	スピードメーターの不動、バッテリーの交換
物品破損	0	
その他	0	

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	状況	対応・対策
		なし		

〔8〕 苦情解決 苦情件数 0 件

【ぽけっと】 令和6年度 事業報告書

〔1〕 運営目標

障害者就業・生活支援センターとして、「就職や職場適応などの就業面の支援や、生活習慣の形成や日常生活の管理など生活支援が必要な障害者に対して、就業に伴う日常生活、社会生活上の支援を行い、身近な地域で就業面及び生活面で一体的かつ総合的な支援を提供し、職業生活における自立を図る」を目的とした事業運営を基本に、職員のスキルや経験を活かしたライン制を構築し、より効果的な支援提供を目指した。また、これまで取り組んできた虐待防止体制（権利擁護）を維持しながら、より良い相談支援の場として取り組めるように、登録者と同じ風景を観ながら各自の相談スキル・コーディネート力の向上を図ることを運営目標とした。

〔2〕 取り組みと状況報告

障害者支援センター「ぽけっと」は「障害者就業・生活支援センター事業」において、県西障害保健福祉圏域を中心に、障害種別を問わず障害のある人の就業に関する相談や支援及び生活支援を実施した。

＜今年度の目標と実績＞

項目	就職件数	実習件数	就職率	定着率（1年）
目標	45 件	40 件	60.0%	80%
実績	50 件	56 件	66.1%	88%

今年度は目標値を全て上回った。

前年度の反省を活かし、公官庁・関係機関等の連携強化の成果が出たと思われる。その中で各職員の資質・意識向上に大きな効果が出ていると感じた。この状況を鑑み、ハローワークや福祉サービス事業所との取り組みとして、今年度も ①圏域職業安定所との連携強化（チーム支援会議等の隔月実施） ②中小企業家同友会への参加（ダイバーシティ委員会の役員等） ③県西圏域（足柄上下郡）自立支援協議会での連携強化（行政・事業所との横の繋がり）を実施した。

事業主支援としては、企業交流会を 3 回実施、「改めて考えよう。障害者雇用の在り方」を通年のテーマとして雇用の幅が広がるなど好評をいただいた。

ネットワーク構築としては、自立支援協議会就労支援部会を始めとし、年間 38 回主催として活動。年々関係性の構築として強化の成果は出ていると感じる。

登録者へ向け、職場定着・就労促進に向け対面でのピア、勉強会、在職者交流、及び生活支援としてフリースペースをニーズに合わせ開催、アンケート等で高評価を頂いた。

■＜事例＞「改めて考えよう。障害者雇用の在り方」をテーマに企業のみならず、福祉事業所や県も参加していただいた開催（年 3 回）。企業事例発表やグループワーク、パネルディスカッション等を実施し、3 回で計 123 名の参加となった。グループワークでは、企業と福祉の立場を逆転するワーク、ロールプレイを実施した。雇用主が福祉の立場として考えたとき、当事者に対してどのような形でアピールポイントを伝えるか、そして福祉側も雇用主の立場としてどのような人材を採用したいのかを考える場として大きな気づきが生まれた。

パネルディスカッションでは、雇用窓口担当者の孤独をテーマに深堀。抱え込まず「本人・企業・福祉三位一体。三位一体で 100%の支援していく事が大切」がキーワードとなった。アンケートでは「目から鱗でした」との意見も上がり、企業と福祉の連携強化にも繋がった。

〔3〕次年度に向けて

上記の事例をより充実、目標を達成できるよう行政・サービス事業所との連携・理解促進を図るとともに、所内連携（内部コミュニケーション）の再徹底を図る。実績目標は今年度同水準以上を目指していくとし、数値のみでなく、質として事業主及び当事者が満足できる結果となるよう、職員の資質向上を目指す。来年度より障害者雇用率が上がり、制度面も変わる事で企業の障害者雇用が活発になると想定される。その為、より企業への理解と配慮を求める為に、伝える力（知識・説明力・相手のニーズをつかむ力）を高め、コーディネート力の向上を目指す。

〔4〕登録者状況

■開所日数および延べ相談支援件数							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
開所日数	23日	23日	25日	23日	25日	22日	
相談支援件数	346件	354件	322件	366件	389件	400件	
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	計
相談支援件数	24日	23日	23日	23日	21日	23日	278日
合計	431件	373件	293件	317件	314件	341件	4246件
■市町村別相談支援件数							
小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	南足柄市	中井町		
2305	121	31	114	345	13		
大井町	松田町	山北町	開成町	その他	合計(件)		
190	93	251	177	343	3983		
■就業支援年間実績							
新規登録者数	職場実習 斡旋数	就職者数	1年以上 離職者数	1年以内 離職者数			
65(22)	56(20)	50(15)	18(6)	6(3)			

※（ ）は精神障害者の数を表す

〔5〕 令和6年度まとめ ※各事業所の課題および実施状況

【項目】 具体的活動	到達点	実施状況	評価
【権利擁護】 ・権利擁護について、チェックリストを通して効果測定を定期的実施、日常的に話し合える土壌作り。権利擁護できる力の向上を意識する。	・権利擁護とは何か、ぼけっとからの視点で伝えることができる。 ・権利擁護の実現に向け日常的に話し合える機会の実践を図る。	チェックリストの実施や所内研修含めて、定期的に話をする事ができた。eラーニングも一部取り入れながらの実施については、次年度も継続して行いたい。より実践的な部分での気づきを得るために事例等、話し合う機会も継続実施出来るとよいと思う。	○
【人材育成】 ・ライン間での人材交流及び交流会等でのファシリテーター等を担うことで実践力を高める。 ・ケース検討を実施する。 ・メンタルヘルスについて所内勉強会を実施。 ・知識（研修）を得て、情報の発信をしていく。	・なかぼつ職員としてコーディネーターができる。 ・ケース検討 ・精神医療勉強会等を通して全体的の底上げができた。	ライン間での人材交流については、定着ラインと求職ラインでのペアを組んでの試行を実施し、相互のスキルアップにつなげている。ケース検討は2回実施。また公認心理士による所内勉強会も行い、登録者向け勉強会のみでなく、日常の支援力の向上と、人材の定着に繋がっている。	○
【業務の検証と改善】 ・PKP（ぼけっと改善プロジェクト）による、定期的な就業環境改善などの活動から、業務の効率 ・明確化、現場からの提案を吸い上げ所内連携の強化を図る。	・PKからの意見も反映でき、所内連携強化につながった。 ・ICTをより効果的に活用できた。 ・働きやすい環境整備ができた。	PKP会議を中心に、ストレスカードの導入や所内環境の整備、働き方のメリハリなど取り組むことができた。ICTの導入による効率化については、PCのSSD交換を3台、中古PC購入を2台行い待機時間等短縮につながった。	△
【地域社会との連携】 ◆地域資源との連携を目的とした関係機関の訪問・ネットワークづくり（県西チーム支援連絡協議会・自立支援協議会・中小企業家同友会） ・ぼけっとの活動の発信（通信・HP・精神障害者地域交流事業 など）	・連携の強化、活動の拡充・発信をすることで地域への障害者の認知を高める。 ・なかぼつとして情報の発信をしながら伝達も出来る。	地域資源との連携強化におけるネットワーク構築については、自立支援協議会就労部会の実施、県西チーム支援連絡協議会の実施、中小企業家同友会への参加を行い、ハブ機能としての役割を果たしている。ぼけっと活動の発信としては、通信を年2回発行、ブログは毎月更新を行い、より身近に感じて頂き、行事への参加や、職場体験への啓発促進に繋がったと感じている引き続き、地域でのニーズ把握や情報発信に努める。	○

〔6〕 リスクマネジメント（事故報告）

種類	回数	内容等
転倒／転落	0	—
服薬	0	—
ケガ	0	—
利用者トラブル	0	—
車両	0	—
物品破損	0	—
その他	0	—

《重大事故》 ※県・市町へ報告

日付	種類	内容	対処	対応・対策
0 件	—	—	—	—

〔7〕 苦情解決

苦情件数 0 件